

AB1 A4



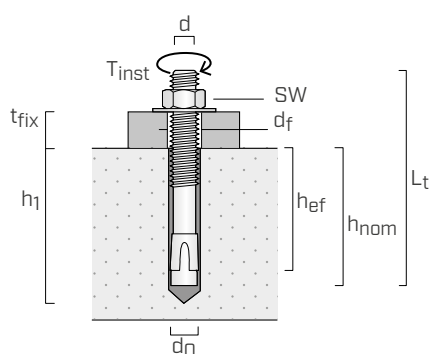
ステンレス鋼重量物用拡張アンカー CE1

- ・ ひび割れのある・ひび割れのないコンクリート用 CE オプション 1
- ・ 耐震性能カテゴリ C1
- ・ A4 ステンレス鋼
- ・ 耐火 R120
- ・ ナットとワッシャー付属
- ・ 高密度材質に適しています
- ・ 貫通締結
- ・ トルク制御された拡張



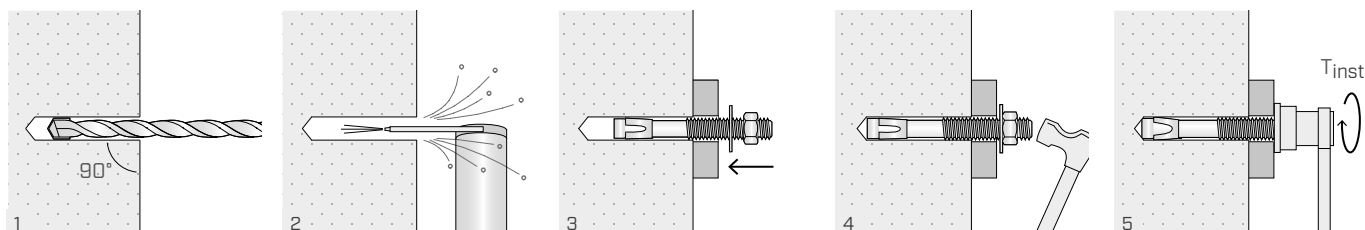
コードと寸法

コード	d = d ₀ [mm]	L _t [mm]	t _{fix} [mm]	h _{1,min} [mm]	h _{nom} [mm]	h _{ef} [mm]	d _f [mm]	SW [mm]	T _{inst} [Nm]	pcs
AB1892A4	M8	92	30	60	50	45	9	13	20	50
AB18112A4		112	50	60	50	45	9	13	20	50
AB11092A4	M10	92	10	75	68	60	12	17	35	50
AB110132A4		132	50	75	68	60	12	17	35	25
AB112118A4	M12	118	20	90	81	70	14	19	70	20
AB116138A4	M16	138	20	110	96	85	18	24	120	10

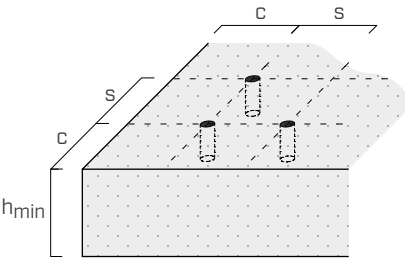


- d アンカー直径
- d₀ コンクリート支持体の穴の直径
- L_t アンカー長さ
- t_{fix} 最大締結厚さ
- h₁ 穴の最小深さ
- h_{nom} 呼びアンカー深さ
- h_{ef} 有効アンカー深さ
- d_f 留め付ける要素の穴の最大直径
- SW レンチ寸法
- T_{inst} 締め付けトルク

組立



■ 施工



AB1 A4

間隔と最小距離			M8	M10	M12	M16		
最小間隔	$s_{\min}$	[mm]	50	55	60	70		
	$c \geq$ の場合	[mm]	50	80	90	120		
最小エッジ距離	$c_{\min}$	[mm]	50	50	55	85		
	$s \geq$ の場合	[mm]	50	100	145	150		
コンクリート支持体の最小厚さ			$h_{\min}$	[mm]	100	120	140	170
間隔と臨界距離			M8	M10	M12	M16		
臨界間隔	$s_{cr,N}^{(1)}$	[mm]	135	180	210	255		
	$s_{cr,sp}^{(2)}$	[mm]	180	240	280	340		
臨界エッジ距離	$c_{cr,N}^{(1)}$	[mm]	68	90	105	128		
	$c_{cr,sp}^{(2)}$	[mm]	90	120	140	170		

間隔と距離が臨界より小さい場合、施工パラメータに応じて強度値を減少させる必要があります。

■ 耐力表

間隔とエッジ距離がパラメータを制限しない場合に、薄い補強層を備えた肉厚の C20/25 グレードのコンクリートへの単一アンカーに有効です。

特性値

ロッド	ひび割れのない コンクリート				ひび割れのある コンクリート			
	張力 ⁽³⁾		せん断 ⁽⁴⁾		張力 ⁽³⁾		せん断	
	$N_{Rk,p}$ [kN]	Y_{Mp}	$V_{Rk,s}$ [kN]	Y_{Ms}	$N_{Rk,p}$ [kN]	Y_{Mp}	$V_{Rk,s}$ [kN]	Y_M
M8	9	1,8	11	1,25	5	1,8	11	$Y_{Mc} = 1,5^{(5)}$
M10	16	1,8	17	1,25	9	1,8	17	$Y_{Ms} = 1,25^{(4)}$
M12	20	1,8	25	1,25	12	1,8	25	$Y_{Ms} = 1,25^{(4)}$
M16	35	1,5	47	1,25	20	1,5	47	$Y_{Ms} = 1,25^{(4)}$

増分係数 $N_{Rk,p}^{(6)}$		
ψ_c	C25/30	1,04
	C30/37	1,10
	C40/50	1,20
	C50/60	1,28

注記:

- ⁽¹⁾ 引張荷重に対するコンクリートコーン形成のための破壊特性。
- ⁽²⁾ 引張荷重に対する分離破壊モード。
- ⁽³⁾ プラウト破壊モード。
- ⁽⁴⁾ スチール破壊モード。
- ⁽⁵⁾ プライアウト破壊モード。
- ⁽⁶⁾ 引張強度増分係数 (スチール破壊を除く)。

一般原則:

- ETA-10/0076 に準拠した特性値。
- 設計値は、以下のように特性値から得られます: $R_d = R_k / \gamma_M$
係数 γ_M は、破壊特性と製品認証に準拠した表に記載されています。
- 間隔の狭い、またはエッジに近過ぎるアンカーの計算については、ETA を参照してください。同様に、より高いグレードで、厚さが制限されているか、補強層が厚いコンクリート支持体への締結の場合は、ETA を参照してください。
- 地震負荷の下でアンカーを設計する場合は、ETA の参考資料と EOTA 技術レポート 045 を参照してください。
- 火災下のアンカーの計算については、ETA と技術レポート 020 を参照してください。